# 【計量ファイナンスA】

14. Realized Volatility

中島 上智(経済研究所)

# Realized volatility

- ▶ 日中の高頻度のリターンを用いて算出するボラティリティの指標。
- ▶ t-1 を第 t-1 日の最終時点, t を第 t 日の最終時点とする.
- 第 t 日の日中の n 個のリターン

$$\{r_{t-1+1/n}, r_{t-1+2/n}, \ldots, r_t\}$$

を用いると、第t日の日次 RV は次のように計算される.

$$RV_t = \sum_{i=1}^n r_{t-1+i/n}^2$$

## Integrated volatility

▶ 資産価格の対数値 p(s) が拡散過程

$$dp(s) = \mu(s)ds + \sigma(s)dW(s)$$

に従っているものとすると, 第 t 日の真のボラティリティは次のように定義される.

$$\sigma_t^2 = \int_{t-1}^t \sigma^2(s) ds$$

▶ 価格にノイズがない場合,  $n \to \infty$  とすると,  $\mathrm{RV}_t$  は  $\sigma_t^2$  に 確率収束する.

$$\operatorname{plim}_{n\to\infty} \mathrm{RV}_t = \sigma_t^2$$

#### Microstructure noise

- ▶ 高頻度データには、bid-ask bounce、非同期取引などを要因として Microstructure noise と呼ばれるノイズが含まれる。
- ▶ まず,

$$\tilde{p}(s) = p(s) + \eta(s), \quad \eta(s) \sim WN(0, \sigma_{\eta}^2)$$

とおく.

#### Microstructure noise

▶ すると,

▶ したがって、△ を小さくすると、真のリターンの分散に比べて Microstructure noise の分散が相対的に大きくなる.

## RV の時系列モデル

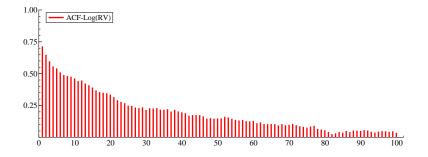
- ► RV には長期記憶性があることが知られている.
- ▶ ある変数の k 次の自己相関係数を ρ(k) とすると,

$$\sum_{k=1}^{\infty} |\rho(k)| < \infty \Rightarrow$$
 短期記憶 (short-memory) 過程

$$\sum_{k=1}^{\infty} |\rho(k)| = \infty \Rightarrow$$
 長期記憶 (long-memory) 過程

#### RV の時系列モデル

日経 225 インデックスの 5 分おきデータから算出された RV の対数 log RV の自己相関係数 (2013/11/14 日から 2022/1/25 日)



## ARFIMA モデル

- ▶ RV には ARFIMA モデルのあてはまりが良いことが知られている.
- ▶ ラグ多項式

$$\Phi(L) = 1 - \phi_1 L - \cdots \phi_p L^p 
\Psi(L) = 1 - \psi_1 L - \cdots \psi_q L^q$$

- ► ARMA(p, q) モデル

$$\Phi(L)(y_t - \mu) = \Psi(L)u_t, \quad u_t \sim N(0, \sigma^2)$$

#### ARFIMA モデル

► ARIMA(p, q) モデル (AR Integrated MA)

$$\Phi(L)(1-L)(y_t-\mu) = \Psi(L)u_t$$

► ARFIMA(p, d, q) モデル (AR Fractionally Integrated MA)

$$\Phi(L)(1-L)^d(y_t-\mu) = \Psi(L)u_t$$

- ▶ *d* > 0 のとき, 長期記憶過程
- ▶ また, d < 0.5 のとき, 定常.  $d \ge 0.5$  のとき, 非定常.

### HAR モデル

- ► Corsi (2004) により提案された Heterogeneous Autoregressive (HAR) モデルが RV のあてはまりや 1 期 先予測に優れていることが知られている.
- ► HAR モデルは次式で表される.

$$\log RV_{t}$$

$$= \alpha + \beta_{d} \log RV_{t-1} + \beta_{w} \log RV_{t-5:t-1} + \beta_{m} \log RV_{t-22:t-1}$$

▶ ここで、

 $+ v_t$ 

$$RV_{t-5:t-1} = \frac{1}{5} \sum_{i=1}^{5} RV_{t-i}, \ RV_{t-22:t-1} = \frac{1}{22} \sum_{i=1}^{22} RV_{t-i}$$

#### Realized SV モデル

- ▶ SV モデルに RV を組み込んだ Realized SV(RSV) モデルが提案されている (Takahashi, Omori and Watanabe, 2009).
- ▶  $x_t = \log RV_t$  とおき,

$$egin{array}{lcl} y_t &=& \exp(h_t/2)\epsilon_t, \ h_{t+1} &=& \mu + \phi(h_t - \mu) + \eta_t, \ x_t &=& \xi + h_t + u_t, \ \end{array} \ egin{array}{lcl} \left( egin{array}{c} \epsilon_t \\ \eta_t \\ \mu_t \end{array} 
ight) &\sim& \mathcal{N}(\mathbf{0},\, \mathbf{\Sigma}), \quad \mathbf{\Sigma} = \left( egin{array}{ccc} 1 & 
ho\sigma & 0 \\ 
ho\sigma & \sigma^2 & 0 \\ 0 & 0 & \sigma^2 \end{array} 
ight). \end{array}$$

## 参考文献

- Corsi, F. (2009) A simple approximate long-memory model of realized volatility, *Journal of Financial Econometrics*, 7(2), 174-196.
- ► Takahashi, M., Y. Omori, and T. Watanabe (2009) Estimating stochastic volatility models using daily returns and realized volatility simultaneously, *Computational Statistics* and Data Analysis, 53(6), 2404-2426.